

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2024年7月3日付

常総市

田んぼダム整備広がる

水害軽減へ水田で貯水

水田が持つ貯水機能を生かして豪雨時の被害を軽減する「田んぼダム」の取り組みが県内で進んでいる。地域の防災対策として農林水産省などが推進しており、2015年に鬼怒川の堤防が決壊した常総市では既に約50鈔の水田で整備を終えた。十分な効果を発揮するには広範囲での整備が必要で、市が取り組み拡大を進めている。



田んぼダムの取り組みとして豪雨時の排水量を調整する管が設置された水田＝常総市三坂町

田んぼダムは、田んぼの水を農業用水路へ流す落水口に板や管を取り付けることで排水量を抑制し、雨水を一時的にためて河川の急激な増水を防ぐ仕組み。下流地域の洪水被害軽減に加え、排水機場の稼働低下による長寿命化などの効果が期待される。

15年9月の関東・東北豪雨に伴う鬼怒川氾濫で大規模な被害を受けた常総市の三坂地区では、区画整理事業に伴い約50鈔の水田で田んぼダムが整備された。同地区では水田の1区画ごとに、側面に穴の開いた塩化ビニール管が設置されており、豪雨時には穴の高さまで水田内で貯水。穴は直径5センチほどで水路への落水口より小さく、水田からの排水量が抑制できる。田んぼダムを整備した農業、飯田光良さん(68)は、15年の常総水害を経験。田んぼダムについて「水害対策で協力できることがあれば」と思い整備を決めた」と話した。

【問1】 田んぼダムに期待される効果は？

下流地域の洪水被害軽減や排水機場の長寿命化

【問2】 田んぼダムの課題は？

1区画の貯水能力が低く地域全体での取り組みが重要

【問3】 田んぼダムが整備されている市町村は？

常総市、笠間市、茨城町

支援制度なども紹介した。市などによると、田んぼダムは稲の生育との両立が必要で、1区画当たりの貯水能力も低いため、地域全体で取り組むことが重要という。

市農業政策課は「各地で田んぼダムを整備してもらえよう、効果や役割をしっかりと伝えていきたい」としている。

(秋葉俊)



よ 読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね